

SQL Anywhere Studio と Windows XP Service Pack 2

この文書では、Windows ファイアウォールを設定し、無効にする方法を説明します。

問題点

Windows XP Service Pack 2 をインストールすると、インストール前に無効になっていたとしても、デフォルトで Windows XP Service Pack 2 ファイアウォール (Windows ファイアウォールと呼ばれる) が有効になります。これは、**Windows XP Service Pack 2 をインストールしたユーザのみ問題となります。**

環境により、下記の対策の 1 つを選択してください。

- **Windows ファイアウォールを設定する**： Windows ファイアウォールが有効なマシンで実行されているネットワーク・サーバまたは Mobile Link 同期サーバへの接続は、Windows ファイアウォールを設定しないと動作しません。
- **Windows ファイアウォールを無効にする**： Windows ファイアウォールが必要ない場合、ファイアウォールを無効にし、Service Pack 2 をインストールする前と同様に Adaptive Server Anywhere 接続を動作させます。たとえば、すべての外部ネットワーク (WAN やインターネット) に対してのファイアウォールがあるローカル・エリア・ネットワーク (LAN) で LAN 内の各マシン上でファイアウォールを実行しても、セキュリティの追加はほとんどありません。Windows ファイアウォールを安全に無効にできるかどうかは確かでない場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。
- **Adaptive Server Anywhere クライアントとして使用されているマシンでは Windows ファイアウォールを設定しない**： ネットワークを介した Adaptive Server Anywhere への接続を有効にした Windows ファイアウォールのマシンには特別な設定は必要ありません。リモート・サーバに接続したときも、アプリケーションは Windows ファイアウォールが有効であろうとなかろうと同様に機能するはずです。

解決策

- **Windows ファイアウォールの設定をする**

Windows ファイアウォールが有効なマシンで Adaptive Server Anywhere ネットワーク・サーバまたは Mobile Link 同期サーバを実行すると、Windows ファイアウォールの設定をするまで他のマシンのクライアントは Adaptive Server Anywhere サーバまたは Mobile Link 同期サーバに接続することができません。Windows ファイアウォールの設定をする一番簡単な方法は、除外するプログラム一覧にネットワーク・サーバまたは Mobile Link 同期サーバの実行ファイルを追加します。

除外するプログラム一覧にネットワーク・サーバの実行ファイルを追加するには：

1. 環境により、下記の 1 つを実行します。
 - [スタート] - [設定] - [ネットワーク接続] を選択
 - [スタート] - [コントロール パネル] - [ネットワーク] を選択
2. リストの最初のネットワーク・インタフェースを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
3. [詳細設定] タブをクリックします。
4. [設定] をクリックします。
5. [全般] タブで、[例外を許可しない] がチェックされていないことを確認します。
6. [例外] タブをクリックします。
7. [プログラムの追加] をクリックします。
8. [参照] をクリックします。
9. SQL Anywhere Studio インストール・ディレクトリの win32 サブディレクトリをブラウズします (たとえば、デフォルト C:\Program Files\Sybase\SQL Anywhere 9\win32)。
10. 例外プログラムとして追加する実行ファイルを選択します。
 - Adaptive Server Anywhere ネットワーク・サーバを追加する場合、dbsrv9.exe (または dbsrv8.exe、dbsrv7.exe - 使用している SQL Anywhere Studio のバージョンによる) を選択し、[開く] をクリックします。
 - Mobile Link 同期サーバを追加する場合、dbmlsrv9.exe (または dbmlsrv8.exe、dbmlsrv7.exe - 使用している SQL Anywhere Studio のバージョンによる) を選択し、[開く] をクリックします。
11. [プログラムの追加] ダイアログで [スコープの変更] をクリックします。
12. サーバへの接続を可能にしたいクライアントの IP アドレスに基づき、適切なスコープを選択します。
13. [OK] をクリックします。
14. [プログラムの追加] ダイアログで [OK] をクリックします。
15. dbsrv9.exe または dbmlsrv9.exe の左側のボックスがチェックされていることを確認します。
16. [OK] をクリックして、[Windows ファイアウォール] ダイアログを閉じます。
17. [OK] をクリックして、[ネットワーク接続のプロパティ] ダイアログを閉じます。

これでネットワーク・サーバを例外とした Windows ファイアウォールを設定しました。ネットワーク・サーバへの接続は指定したスコープ内のクライアント・マシンであるならば成功します。

- **Windows ファイアウォールを無効にする**

Windows ファイアウォールが必要ない場合、無効にすることができます。Windows ファイアウォールを安全に無効にできるかどうかは確かでない場合は、ネットワーク管理者に連絡してください。

Windows ファイアウォールを無効にするには：

1. 環境により、下記の 1 つを実行します。
 - [スタート] - [設定] - [ネットワーク接続] を選択
 - [スタート] - [コントロール パネル] - [ネットワーク] を選択
2. リストの最初のネットワーク・インタフェースを右クリックして、[プロパティ] を選択します。
3. [詳細設定] タブをクリックします。
4. [設定] をクリックします。
5. [全般] タブで、[オフ (推奨されません)] オプションを選択します。
6. [OK] をクリックして、[Windows ファイアウォール] ダイアログを閉じます。
7. [OK] をクリックして、[ネットワーク接続のプロパティ] ダイアログを閉じます。

これらの手順が完了すると、Adaptive Server Anywhere 接続は Windows XP Service Pack 2 のインストール以前と同様に動作します。